

# 1 計画策定のためのアンケート調査の結果概要

## (1) 調査の名称

糸島市 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート

## (2) 調査の対象

就学前児童の保護者	本市在住の就学前児童の保護者から無作為抽出
小学生の保護者	本市在住の小学生の保護者から無作為抽出

## (3) 調査の方法 郵送による配布・回収

## (4) 調査の期間 平成 30 年 11 月 1 日から同月 30 日まで

## (5) 回収の結果

	配布数	回収数 (有効回収数)	回収率 (有効回収率)
就学前児童の保護者	2,000 件	1,015 件 (996 件)	50.8% (49.8%)
小学生の保護者	2,000 件	940 件 (918 件)	47.0% (45.9%)

## (6) 調査結果の概要と考察

### ア 子育て家庭の状況

- 本調査の回答者は母親が 9 割以上を占めています。
- 就学前児童では 5.1%、小学生では 12.7%の子育て家庭は、夫または妻がいない状況となっています。
- 子育て家庭の概ね 6 割は、父母ともに子育てを行っています。
- 緊急時に子どもを見てもらえる人として祖父母などの親族を挙げる人が多いものの、見てもらえる人がいない家庭も 1 割以上存在しています。
- 子育てをする上で、気軽に相談できる人や相談できる場所がないと回答した人は、就学前児童の保護者では 3.2%であるものの、小学生の保護者では 8.0%と増加しています。

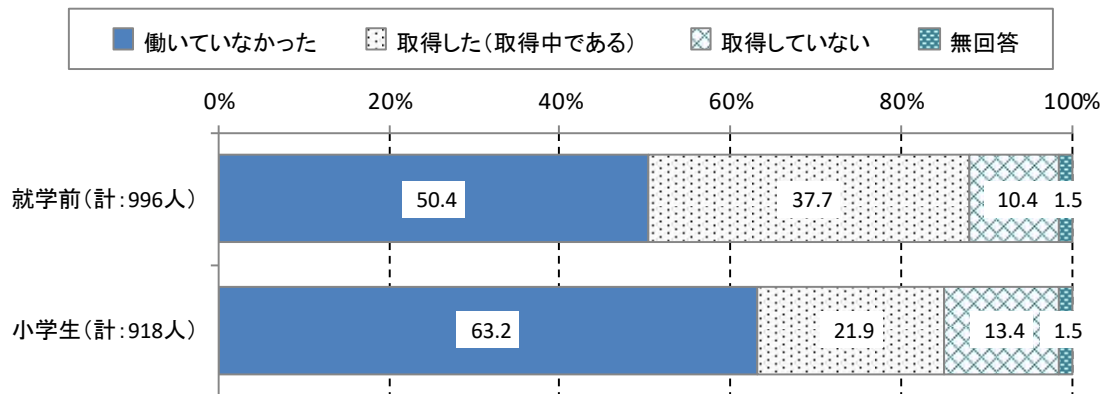
## イ 保護者の就労状況

- 父親の約9割（就学前児童）、約8割（小学生）はフルタイム勤務となっています。
- 働いていない母親の就労意向を見ると、就学前児童の母親の15.1%、小学生の母親の21.1%が、「年齢に関係なくすぐにでも就労したい」と回答しています。
- 育児休業制度の利用率を見ると、就労中の母親のうち、78.4%（就学前）が取得したのに対して、父親は2.5%に過ぎず、父親の利用は極めて低くなっています。
- また、母親の約4人に1人は育児休業の制度がなかったと回答しています。

## ウ 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の状況

育児休業の取得状況（図1）を見ると、母親は出産時に働いていない割合が半数以上となっています。育児休業を取得した割合も母親は父親に比べて圧倒的に高くなっており、育児は女性がするものという、性別による役割分担意識が依然として根強いことがうかがえます。

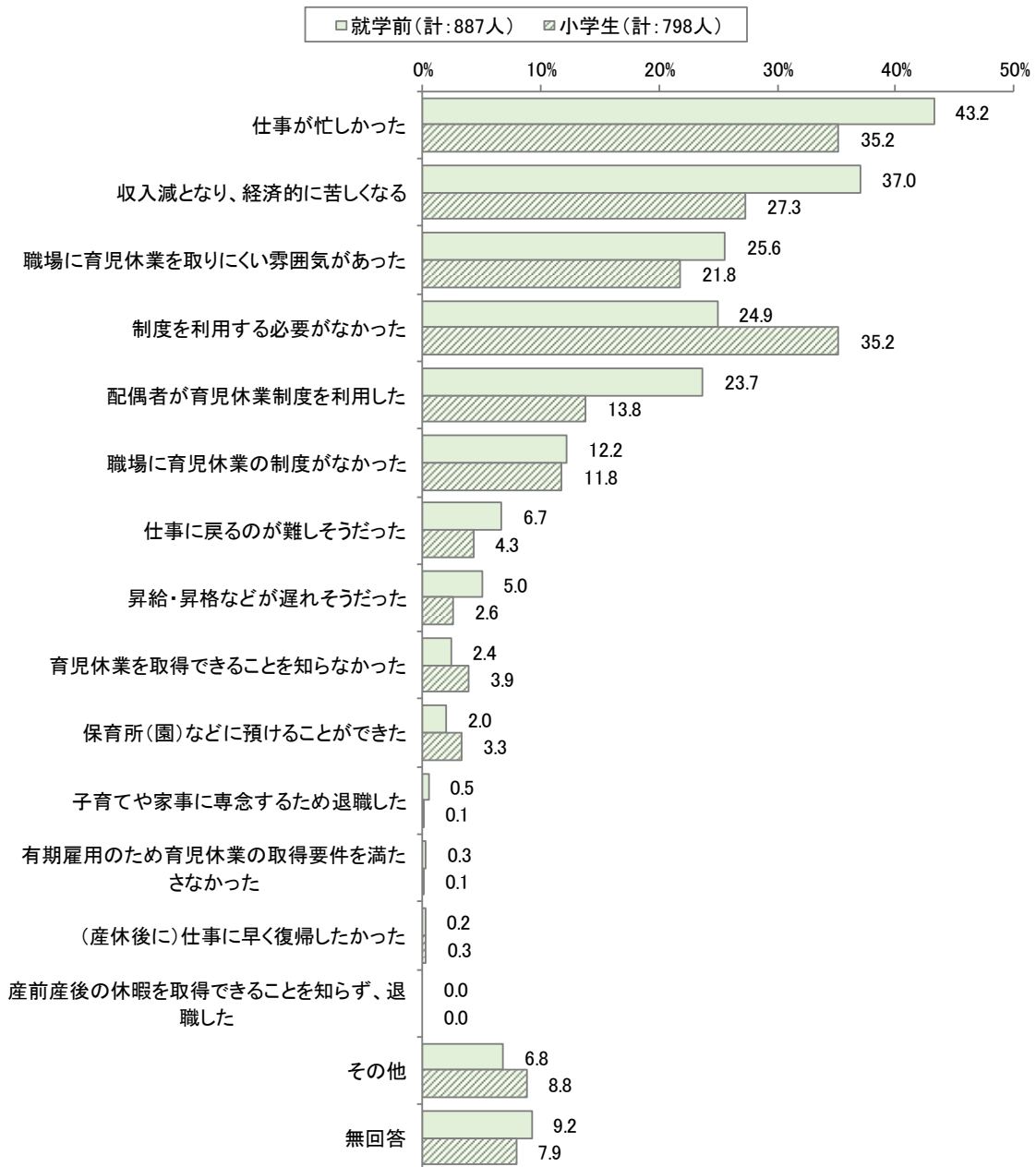
図1 育児休業を取得したか（母親）



父親が育児休業を取得しなかった理由（図 2）は、「仕事が忙しかった」「収入減となり、経済的に苦しくなる」などの回答が上位に挙がっており、母親の「子育てや家事に専念するため退職した」という回答と対照的です。

小学生の父親で「仕事が忙しかった」と並び、最も回答が多かったのは、「制度を利用する必要がなかった」（35.2%）となっています。この回答の背景には、母親の多くが出産前に退職し、子育てに専念しているという事実があると考えられ、この結果からも、「男性は仕事、女性は子育て」という意識を垣間見ることができます。

図 2 育児休業を取得しなかった理由（父親）



## Ⅰ 病児・病後児保育や一時預かり保育の状況

就学前児童の85.8%、小学生の65.9%が、この1年間に病気やけがで幼稚園・保育所・学校などを休まなければならなかったと回答しています。(図3)

病気やけがで学校等を休まなければならなかったときに「父親が休んだ」、「母親が休んだ」と回答した人に、できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したいと思ったかと尋ねたところ、就学前児童の28.2%、小学生の13.2%が、できれば利用したいと回答しており、特に就学前児童で利用意向が高くなっています。(図4)

図3 過去1年間、病気やけがで幼稚園・保育所・学校を休ませた経験があるか

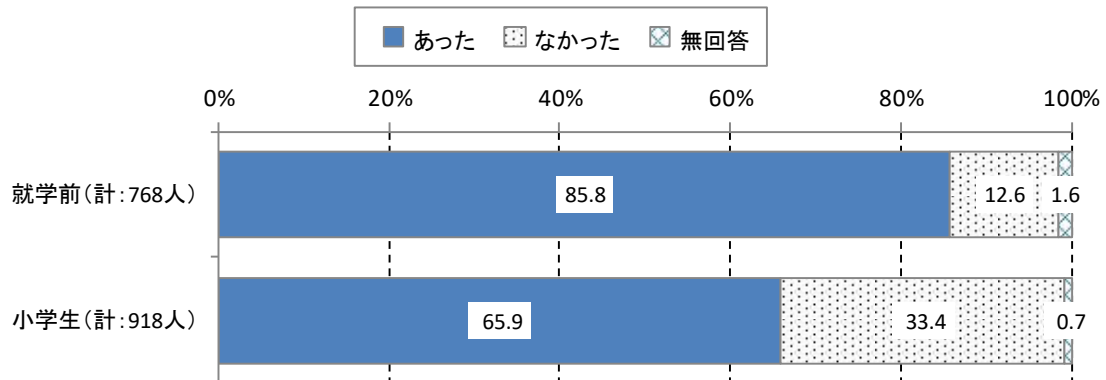
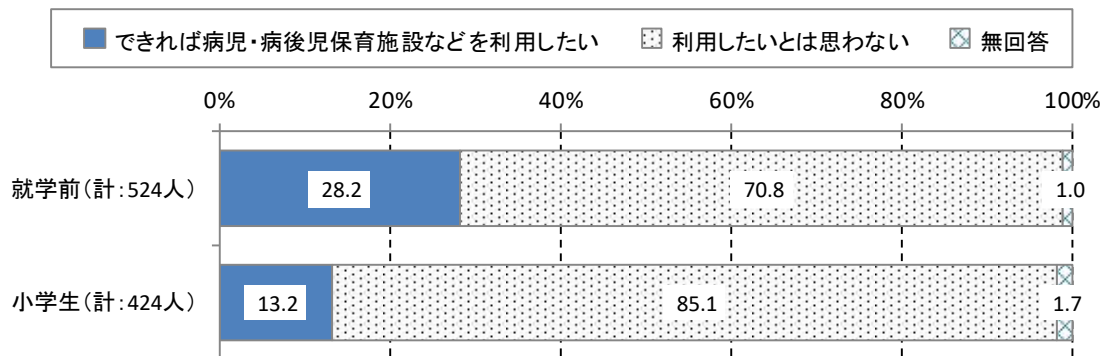


図4 その際に、できれば病児・病後児のための保育施設などを利用したいと思ったか



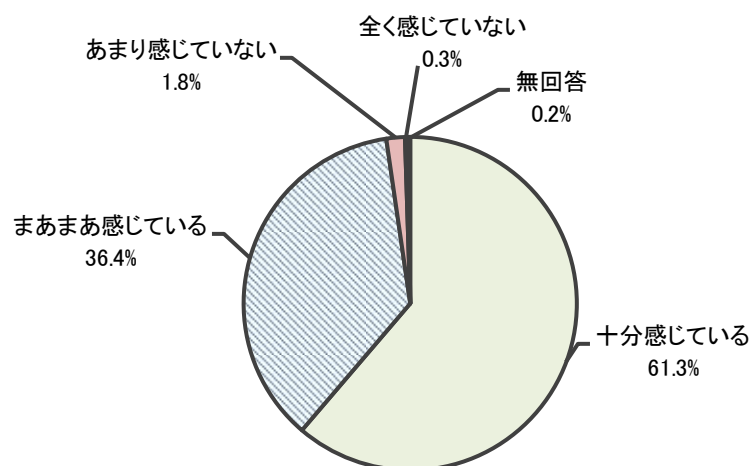
## オ 子育ての様子について

就学前児童の保護者の97.7%は子育てに喜びを感じていることが分かります（図5）。一方で、子育てに伴い、多くの悩みや不安を抱えていることも見て取れ（図6）、子育てに悩みや不安を感じている保護者の割合は9割を超えていることが分かります（90.7%）。

子育てに関して気軽に相談できる先について尋ねたところ、配偶者や家族・親族、知人・友人を挙げる保護者がほとんどであり、隣近所の人や行政機関等を挙げる人は比較的少ない状況です（図7）。

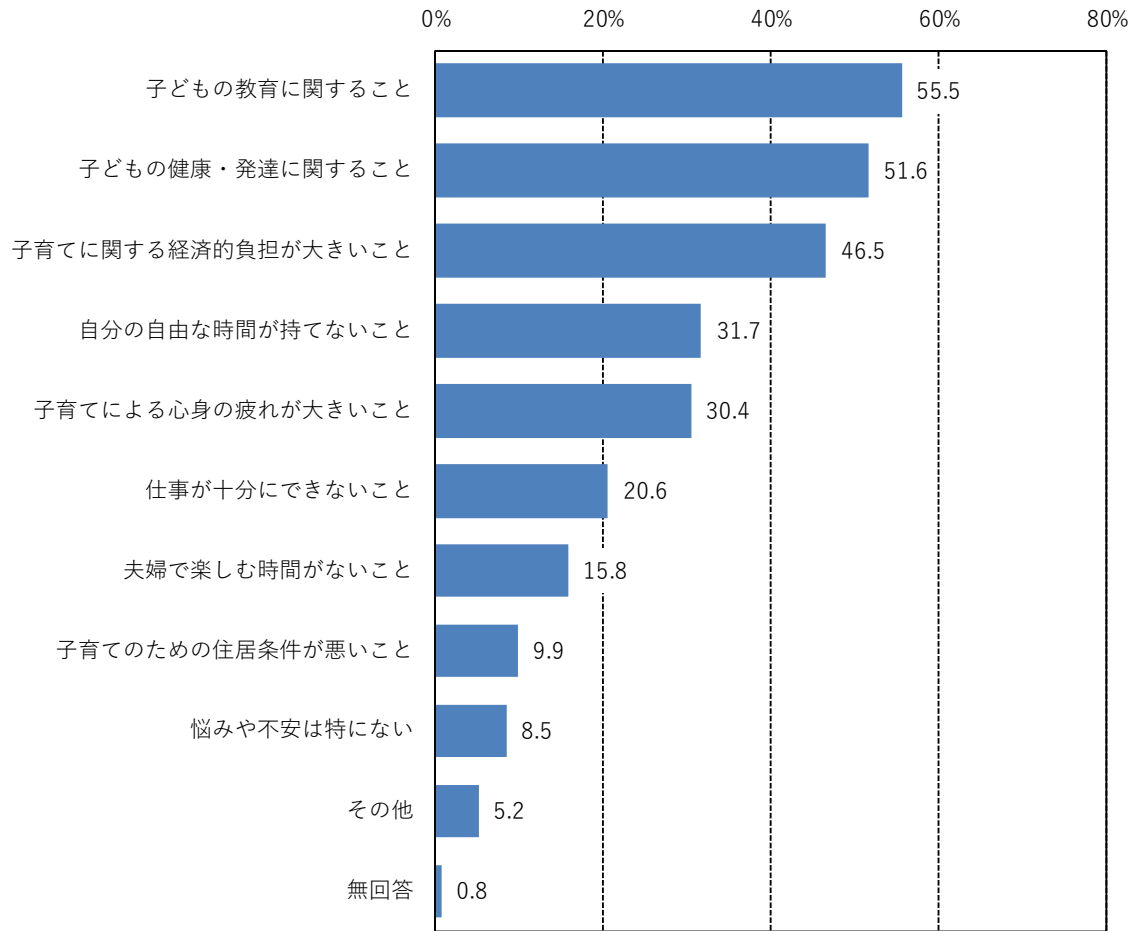
少子化や近所付き合いの希薄化、核家族化等の進行により、地域の中で同じような悩みを持っている子育て世帯と情報交換する機会がなかったり、アドバイスができる肉親や親族が近くにいなかったりする子育て家庭が増加している可能性があります。困ったときに気軽に頼れる先の選択肢をできるだけ多く確保しておく必要があります。

図5 子育てに喜びを感じているか（就学前）



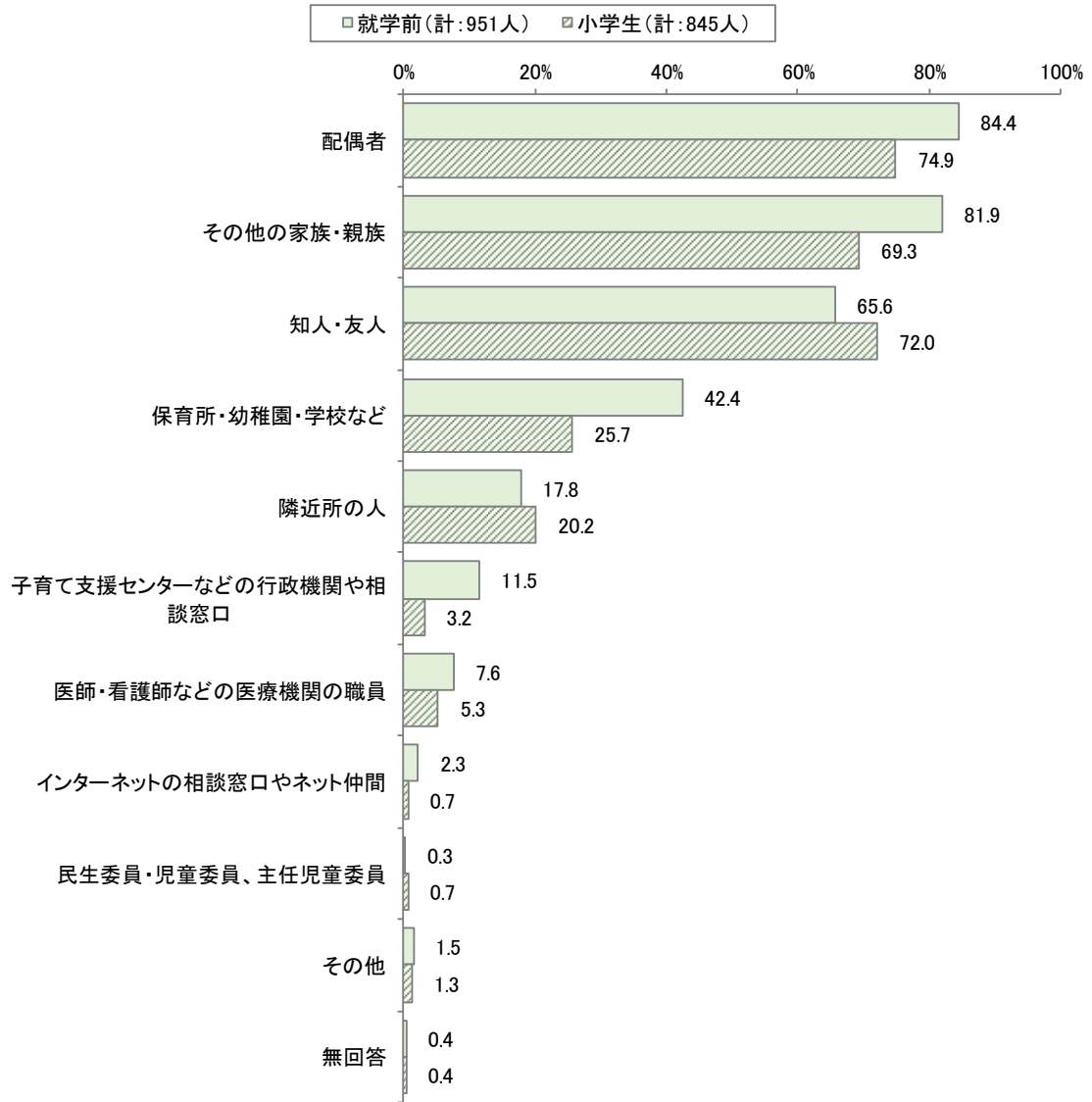
計：996人

図 6 子育てをする上で、どのような悩みや不安があるか（就学前）



(計：996人)

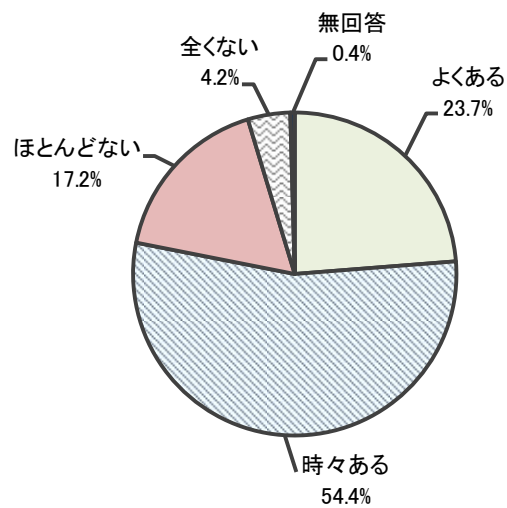
図 7 子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先



## カ 地域の子育てへの関わり

子育てに対する不安感、負担感を低減させるためには、家族のみならず地域の関わりも大切になってきます。小学生の保護者に、地域の人から子どものことで声をかけてもらうことがあるかと尋ねたところ、「よくある」、「時々ある」との回答が 78.1%あり、本市においては、地域全体で子育てできる環境がまだ残っていることが分かります。

図 8 地域の人から子どものことで声をかけてもらうことがあるか（小学生）



計:918人



## キ 市に充実を期待する子育て支援施策

市に充実を期待する子育て支援施策を尋ねたところ、「保育サービスの費用負担軽減や児童手当など、子育てのための経済的支援をする」、「子どもを事故や犯罪の被害から守るための対策を進める」、「地域で子どもたちが遊んだり、スポーツしたりする場や機会を増やす」、「放課後児童クラブのほかにも、子どもの放課後の居場所を増やす」、「仕事と子育ての両立しやすい環境づくりについて、企業へ啓発する」などが上位に挙げられています（図 9）。

図 9 市に期待すること（抜粋）

